

ふるさとキャリア教育で「サーフィン体験」

故郷から豊かな生き方を学ぶことを目的にした「ふるさと・キャリア教育」の一環で、三浦小、田ノ口小、南郷小の5・6年生がサーフィン体験を行っています。

7月5日(月)には、三浦小が実施。町内でサーフィンショップを営む事業所3店舗が協力し、子どもたちに指導を行いました。

開始前にはゴミ拾いを行い、その後、陸上で「一度立てたらすぐく気持ちが良いから、自信を持ってやってみて」などとアドバイスを受け、子どもたちは実際に波に乗ろうと何度も挑戦をしました。



波乗りのコツを指導

講師を務めた新谷信行^{にいのぶのぶ}さんは、「子どもたちにはサーフィンの楽しさに気づいてもらえたら嬉しい。また、ゴミ拾いを通じて砂浜の環境も意識してもらえたら」と話しました。また、終了後、子どもたちは、「波に乗って進むと気持ち

良かった」「海水をいっぱい飲んだけど、楽しかった」などと笑顔で話しました。



挑戦を重ね波乗りに成功

南郷小学校防災キャンプ

南郷小学校の5・6年生12名が7月20日(火)・21日(水)に1泊2



テントを設営する児童ら

日の防災キャンプを行いました。この取組は昨年に続き2回目です。キャンプ中に防災について学び、子どもたちの意識や防

災力を向上させる目的で実施されています。

役場情報防災課の職員から土砂災害や風水害をテーマにした講義があった後、子どもたちは校庭でテントの設営や夕食のカレー用に薪を使って白米を炊く体験をしました。その後、学校の裏手にある避難場所のヤモウジ(通称「桜公園」)へ地域住民とともに夜間避難訓練をし、星空を観察し帰校。手作りのランタンを灯し、保護者の楽器演奏を楽しんだ後、設営していたテントで一夜を明かし午前7時半頃解散しました。

子どもたちは、「風水害のことが学べて良かった」、「防災キャンプを家でもやってみたい」、「自分たちで炊くご飯は美味しかった」などと感想を話しました。



薪で火を起こし米を炊く児童ら

町農業公社が「新規就農サポートハウス」を整備

黒潮町農業公社が新規就農者の支援の一環として、浮鞭地区の農地へ10アール(※)の園芸用ハウスを整備しています。

このハウスは、公社などで農業を学んだ研修生がその後就農する際、いきなりハウスを建設することへのハードルを下げ、より就農しやすくなることを目的としています。まずは公社のサポートハウスで農業をしながら、自身のハウス建設や中古ハウスの借入れなどの準備を進めていくものです。

今年6月から(有)今倉商店による建設工事が着工され、取材に伺った6月29日(火)には、ハウスの骨組みが組みあがっていたところでした。



完成は8月下旬を予定しており、今年度公社を卒業予定の新規就農者に貸し出しを予定しています。
※1アール＝100㎡